

## わたしのすきな絵本

「今月の一冊 ～わたしのすきな絵本～」(9月)

<ご紹介者>

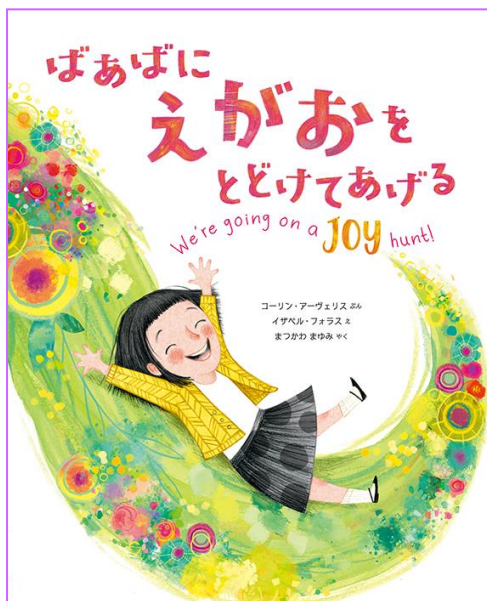
矢祭町長 佐川 正一郎

矢祭町子ども読書の街づくり推進委員会委員長



# 『ばあばに えがおを とどけてあげる』

コーリン・アーヴェリス 文 / イザベル・フォラス 絵 / まつかわまゆみ 訳  
/ 評論社 対象：小学校低学年から高齢者まで



内容のご紹介

読書の秋に読みたい心温まる必読の絵本です。  
ばあばと孫のなにげない生活の中で、笑顔がないことに気づき孫のファーンが、ばあばに笑顔をとどけようと公園に出かけました。池のさざ波が太陽の光でキラキラと輝いています。このキラキラをつかまえてばあばにあげれば笑顔が戻ると思いファーンは、あみやフライパンでつかまえようとしませんが、できません。このことをばあばに話すと、ばあばは、“あなたがいるだけで、よろこびをもらい、幸福がある”と伝えます。

私も3人の孫がいます。孫たちから沢山の笑顔と安らぎをいただいています。

子どもの将来の成長を見守っていきたいと思います。

ばあばは、このごろ元気がない。ケーキも焼かないし、お部屋もほこりだらけ。そして、笑わなくなった。「じんせいからよろこびがきえちゃったみたい」って、ママはいう。

「よろこびって？」 「ひとのこころをしあわせにして、めをかがやかせるものよ」

「ばんごはんのあとのダンスみたい？すべりだいをワァーイ！ってすべるみたい？」

「そうよ！すばらしくすてきなワァーイよ！」

「ばあばはワァーイってしたいんだ！」。ファーンは、ばあばの人生に「よろこび」をとりもどしてあげようと、「ワァーイ！」を探しに出かけます。

わたしたちに「よろこび」の意味をやさしく教えてくれる、おばあちゃんと孫娘のあたたかな物語です。

(評論社紹介文/矢祭もったいない図書館)